

国語

一次の文章は、今から約四十年前に、哲学者の田中美知太郎^{たなかみちたろう}によって書かれた随筆である。これを読んで、あとの(一)から(五)までの問いに答えなさい。

① 鷗外の『即興詩人』は名訳であって、原作よりもすぐれていると評判された。実際にそうかどうかは知らず、とにかくそういうことはありうるだろうと思う。わたし自身にもそれらしいことがあったからだ。もうだいぶ以前のことだが、わたしがある学会の代表者になっていたとき、たまたま関連の国際会議が東京にあつて、そのために来ていた外国の代表者の表敬訪問みたいなものを受けたことがあつた。わたしたちが委員会か何かの集まりをしていたときだつたと思う。歓迎の挨拶をするのがわたしの役目である。わたしはこの種の挨拶が全く苦手である。むろんそれを外国語でべるなどということは、①のことである。さしいわいなことに、わたしの学会は語学の得意な人たちの集まりなので、そのうちから特に上手な人に頼んで通訳してもらうことにした。何をわたしがしゃべつたか、全く記憶にないが、どうせお話にならないようなものであつたことは間違いないようである。それをわたしの友人は、格調高い英語に通訳して、堂々たる演説にしてくれたようである。りつばすぎて客の方が面くらつていたのではないかとも思う。つまりこのような場合は、AがBよりも上出来ということになる。わたしとしては得をしたことになるのかもしれない。感謝こそすれ文句を言う筋は何もない。しかしほかの人から見ると、これはわたしが実際に言つたことよりもいいという、まさにその点で間違つていっていることになるだろう。そしてその点で批判を受けることになるかもしれない。

てしまつて、できるだけ読みやすい訳をつくるのが、イギリスの伝統と言えるかもしれない。ジョウエットのプラトン訳などは、その代表的なものと言ふことができるだろう。これはこれで一般読者をプラトンに親しませる上で大変なメリットがあるわけである。しかしプラトンの作品が、どれもこんな調子で完全に訳せるかどうか。哲学上のこみいった論理が、これでわかるかどうか。ポピュラーな作品だけを讀んでいる分には、ある程度まで楽しい読み物になるかもしれないが、後期作品のようなものになると、案外の硬さに泣かねばならないことになるだろう。英語訳にしても新しいものには、プラトンの思考のあとを忠実にたどるために、英語そのものに無理を加えるようなものも見られる。英語を得意とする友人の一人が、こんな英語があるのかと愕然^{ぎやくぜん}としていたことがある。②。いい翻訳のための二条件というのは、なかなか調和がむずかしく、今日の訳者もこのために苦心しているのである。

⑤ これは音楽の演奏などでも同じかもしれない。ここでは譜面に忠実であることと自己の一貫した解釈をもつことの二つが要求されるだろう。むかしは音楽会へ行くと、楽譜とにらめっこをしながら聴いている熱心家をよく見かけたものである。むろんこれも学習者にとってはよい勉強になるものかもしれないが、演奏がそのような点だけを聴くものでないこともたしかである。しかしまた主観的な解釈だけが独走するような演奏も困りものである。忠実な受動性と奔放な能動性との調和は、よい演奏よい翻訳において充足されなければならない必要条件なのである。そして自然研究や歴史研究においても、データをたくさん集めて、これを精密に観察し、忠実に記述する仕事と、そこから解釈をとり出すための分析、推理、想像をはたらかせる仕事とは、うまく調和させられなければならないだろう。

⑥ わが国の今日の文化は大体が翻訳文化と呼んでいいようなものだと思

② これがわたしの下手な挨拶にかかわる限りは、大した問題にはならないが、責任のある重要人物の言つたことだとすると、ひよつとしたことで大問題にならないとも限らない。またそういう重大な影響とか結果とかがすぐ実際に出てくるのではないにしても、古今の名作とか世界的な古典とか言われるようなものの翻訳ともなれば、ただ調子のよい文章に訳されているというだけでは、すぐにいい訳だとは言えないことになる。それらの作品については、多方面の学問的研究が行われていて、それが長い歴史をもっているから、それらを一応心得た上での正確な訳が要求されることになる。そしてその学問上の要求はかなりきびしいものになる。だから、いわゆる名訳もそう簡単には出来ないことになる。しかしまたそう簡単にあきらめてしまうこともできない。それは挑戦目標としてわたしたちを招くわけである。それは一方においては、読みやすく楽しめる文章を目ざすとともに、他方では原文に完全に忠実であることにもつとめなければならないことになる。後者の条件は、いわゆる逐語訳とか直訳とか呼ばれるやり方で、ある程度までみたすことができる。③ プラトン翻訳の場合だと、これがドイツ語訳の伝統になっている。ドイツ語とギリシャ語とは、もともとインド・ヨーロッパ語族の一つとして、親類関係にあるのだし、そのなかでも相互に似たようなところが多いあるから、一語一語対応させるような逐語訳も、かなりの程度まで可能である。しかしこれらのドイツ語訳は、一見もつともらしい文字がならんでいるけれども、さてどういふことが言われているのかと考へてみると、どうも意味のつかめな場合が少なくない。普通のドイツ人をつかまえて読ませてみても、よくはわからないようだ。アーベルトのプラトン訳は、直訳調を脱しようとした努力の見える訳だけれども、大学で教えていたドイツ人教師が、むずかしいと言つたことがあつた。④ これに対して、大意だけをつかみ、面倒なところはあつさり切りすて

えられるが、その土台となる翻訳そのものには、いま言われたような二条件が果たしてうまく調和されているのかどうか。わが国に入つて来る映画や流行歌の題名には、いかにも思ひ合せぶりの、情緒的題名が少なくない。しかし原題も原物も、およそそれとは違つたものが少なくない。これらの題名は名訳の一種とも目されて、それだけを取つて考えれば、傑作だと感心せずにはいられないものもある。しかし万事がこの調子ですませられるかどうか。余計な解釈によつてふくれ上がった情報だけにとり囲まれていると、われわれは世界の実態について、とんでもない判断や行動のあやまちをおかし、それがわれわれの悲劇を将来させることになるかもしれないのである。

(田中美知太郎『日本の名随筆 別巻45 翻訳』による)

- (注) ① ⑥は段落符号である。
- 鷗外^{そうがい}＝森鷗外のこと。
 - 学会^{がくかい}＝同じ分野の学術研究を目的とした研究者の団体。
 - プラトン^{ぷらとん}＝古代ギリシャの哲学者プラトンの作品の翻訳。
 - インド・ヨーロッパ語族^{いんど・えうろぷぱごしゆ}＝東はインドから西はヨーロッパ大陸にわたつて広い範囲で用いられている多くの言語の一群のこと。
 - アーベルト^{あーべると}＝十九世紀のドイツの哲学者。
 - ジョウエット^{じょうえっと}＝十九世紀のイギリスの哲学者。
 - 愕然^{ぎやくぜん}＝驚きあきれて、ぼう然とするさま。
 - 目する^{めする}＝評価する。
 - 将来させる^{きざい}＝ある状態をもたらす。

(一) ① にあてはまる最も適当なことを、次のアからエまでの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア さぞ イ かねて ウ たちまち エ なおさら

(二)

A と B

にそれぞれあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア A 翻訳 B 原作
イ A 原作 B 翻訳
ウ A 挨拶 B 演説
エ A 演説 B 挨拶

(三)

② いい翻訳のための二条件の内容を説明している一文を、これより前の文章の中からそのまま抜き出して、始めの五字を書きなさい。

(四)

この文章中の段落の関係を説明したものとして適当なものを、次のアからエまでのの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。
ア 第二段落では、第一段落で述べた体験談を基に仮説を立てて検証すること、筆者独自の視点を提示している。

イ 第三段落では、第二段落で述べた主張の根拠となる複数の具体的な事実を挙げて、詳しく説明している。

ウ 第四段落では、第三段落までの筆者の考えとは異なる考えを示した上で、それに対する反論を述べている。

エ 第五段落では、第四段落までとは別の例を示して説明し、筆者の主張をさらに根拠づけている。

(五)

次のアからエまでの会話は、この文章を読んだ生徒五人が意見を述べ合ったものである。その内容が文章に書かれた筆者の考えに近いものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

オ (Eさん)

この文章が書かれたのは四十年前ですが、今読んでも説得力があると感じました。特に、主観的に解釈した情報ばかりに接していると、とんでもないあやまちをおかすかもしれない、という指摘には重みを感じます。私たちが世界と向き合っていく上で、大切なことを見落とさないためには、「いい翻訳のための二条件」はとても参考になる視点だと思います。

ア (Aさん)

森鷗外の小説は教科書にも載っていたので、読んだことがありますが、翻訳もしていたのですね。鷗外が翻訳した『即興詩人』が原作よりも優れていると評価された理由はどこにあるのでしょうか。私は、鷗外はドイツに留学してドイツ的な翻訳の伝統を身につけていたため、忠実な翻訳によって作品の魅力を十分に伝えることができたからではないかと思っています。

イ (Bさん)

私は、同時通訳の仕事に興味をもっていますが、通訳するときには忠実に翻訳することが最も大切だと思っていました。でも筆者は、プラトンの翻訳におけるイギリスの伝統のように、原文に忠実でも表現に無理が生じて分かりにくくなるということが起こると述べています。ですから、まずは何を伝えたいかという大意を優先して訳すことが大切だと思いました。

ウ (Cさん)

私はピアノを習っていますが、自分なりに曲を解釈して演奏したとき、先生から譜面どおりでない点を指摘されました。自分のイメージを自由に表現しすぎて、譜面に忠実でない弾き方をしたのです。演奏も翻訳も、作品を正確に表現することと自分の解釈を表現することとの調和を図ることが大切なのではないでしょうか。

エ (Dさん)

森鷗外が活躍したのは、西洋の学問や文化が翻訳されてどんどん取り入れられていった明治・大正時代です。筆者は、昔から翻訳文化であったわが国には「いい翻訳のための二条件」を調和させる伝統があったために、鷗外の翻訳は名訳となり、日本文化もここまで発展してきたと考えているようです。

二

次の(一)、(二)の問いに答えなさい。

(一) 次の①、②の文中の傍線部について、漢字はその読みをひらがなで書き、カタカナは漢字で書きなさい。

① 世界中で生涯スポーツが奨励されている。

② 近くの海岸で初日の出を才力む。

(二) 次の③の文中の傍線部と同じ漢字を用いるものを、あとのアからエまでのの中から一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

③ 店員さんに、ホウソウ紙は必要ないことを伝えた。

ア 安全のため、乗船前に救命胴衣をソウチャクする。

イ 私の兄は、無線でソウジユウする飛行機を作っている。

ウ この岬では、千五百万年前のチソウを見ることが出来る。

エ 鉄道が開通し、大量に物資をユソウできるようになった。

三 次の文章を読んで、あとの(一)から(六)までの問いに答えなさい。

① AI(人工知能)は既に、バッハに似たような曲を作ることができず、カリフォルニア大学音楽学部教授のデヴィッド・コープが開発した作曲プログラムの「エミー」は、聴衆がバッハの本当に作った曲と区別できないような曲を生み出すことができます。しかし、それはしよせんまね事に過ぎず、革新的な創作行為とは異なっています。バッハ自身の曲をインプットせずに、中世・ルネサンス期からバロック期に至るまでのバッハ以前に作られた音楽をインプットし、バッハに類似した曲を生み出すことができれば、その時初めてAIがバッハと同等の創造性を持ち得たと言えることができます。それが可能であるならば、歴史上に存在したあらゆる音楽をインプットすることによって、多くの人々に新規性を感じさせる曲を作ることができる可能性があります。しかしながら、AIにとってそれは困難です。

② 音楽の好みは人それぞれですが、それでも多くの人々を心地良くさせるメロディやリズムのパターンは確かに存在します。歴史上偉大とされている音楽家はどのようなパターンの発見者であり、偉大な芸術的創作というのは、人間の脳に眠る知られざる感動のパターンを掘り起こす作業であるとも言えます。このような掘り起こしがAIに難しいのは、AIは人間と同じ脳を有していないので、人間が何に感動するのかをアブリオリに(先立って)知ることができないからです。人間は多種多様な欲望や感性を持っているにしても、基本的には似たような脳を持っているので、人間同士である程度の共通性があります。私は、それを「感覚の通有性」と言っています。人間の作曲家は、新しいメロディが浮かんだ時に、そのメロディが心地良いものであるかどうかを自分の脳に問い

合わせるすることができます。そして、そのようなメロディは他人にとって心地良いものである可能性が十分にあります。それは人間同士には感覚の通有性が存在するからです。AIと人間の間には感覚の通有性がアブリオリには存在しません。AIは、新しく思い浮かんだメロディが人間にとって心地良いかどうかを自分の脳に問い合わせながら作曲することができないのです。(中略)

③ 「身体知」とは、泳ぎ方とかバットの振り方、バイオリンの弾き方のような、言葉では明示しがたい無数の身体感覚に基づいた知識のことです。私たちの脳と身体は神経系で複雑につながっており、身体知はそのような総体によって獲得されています。人間は無数の身体感覚を持っており、それがスポーツばかりでなく、学問や芸術、ビジネス、対人サーピスにとって必要な技能やひらめきを与えています。ホーキング博士が言うように脳は確かに筋肉ではありませんが、筋肉は脳のように思考に関与しています。AIがたとえ人工の身体であるロボットに搭載されたとしても、その身体は生命であるところの人間のものとは異なっています。そうであるならば、その「AI・ロボット」は人間が獲得しているような身体知を自ら発見し獲得することはできません。

④ 例えば、バットの振り方を人間に教えるコーチの仕事がロボットに務まるでしょうか。ロボットは人間と同じ身体を持っていないので、人間がバットを振っている時の身体感覚を自ら知ることができません。ロボットは人間とは異なる身体を有しているからです。人間は多種多様な身体感覚を持っていますが、その感覚は人間同士である程度の共通性があります。このことを「身体感覚の通有性」と呼ぶことができます。人間とロボットではほとんどこの通有性がありません。ロボットも、マニュアルにしたがってバットの振り方を人間にコーチすることは可能だ

と思われるが、マニュアルそのものを作り出すことはできません。また、自分の身体に問い合わせることができないので、マニュアル外のきめ細かなコーチングも難しいでしょう。

⑤ 感覚の通有性は、さらに発想力の問題にも関わってきます。今でもAI技術を組み込んだソフトウェアは新しいアイデアを発想します。将棋を指すソフトウェア(将棋AI)は、今やマシンスペックにモノを言わせて何の創造性もない力技の探索をしているわけではありません。プロ棋士のまねをしているだけでなく、これまでプロ棋士が指したことのない新しい手(新手)を指すことができます。

⑥ しかしながら、一見「人間対コンピュータ」の戦いに見える将棋の対戦も、その本質は「人間対人間」の戦いであると言えます。コンピュータを用いた人間と徒手空拳の人間の戦いであるに過ぎません。将棋AIが人間を打ち負かしたとしても、コンピュータが人間に勝利したことにはなりません。なぜなら、そうした将棋AIを設計し開発したのは、他ならぬ人間だからです。コンピュータが自分で将棋を指すソフトウェアをプログラミングしたわけではありません。プログラムがアイデアを発想するといっても、そのプログラムを開発したのは人間であり、その発想の枠組みを設計したのは人間です。そういう意味で、お釈迦様の手

のひらの孫悟空のように、いまだAIは人間の手の内にあります。プログラムの発想がゲームで人間を打ち負かしたり、人間を驚かせたりするにしても、その枠組み自体はみ出すことはありません。例えば、将棋の対戦で負けそうになった時に、将棋盤をひっくり返してゲームをほごにすることを思い立つ将棋AIは今のところ存在しません。AIにそもそもそのような欲望が存在しないからです。発想が欲望に基づいて生み出されるといえる重要な点です。欲望がなければ、将棋盤をひっくり返すというような飛躍的なアイデアを発想することができないのです。様々な欲望をおのずと獲得できるようなAIが開発できたら、そのようなAIは生命的であると言えます。その場合、AIの欲望の増長は人間のものとは全然違ったあさっての方向を向いている可能性が高いでしょう。このようなAIが生み出すアイデアは人間にとって意味のあるものにはなりません。AIと人間の間に感覚の通有性が存在しないからです。発明や発見などのアイデアの発想においても、AIは、芸術的創作と同じ問題に突き当たるといわれます。「人間にとって意味のある飛躍的なアイデア」と「人間にとって心地が良くてかつ画期的なメロディ」はどちらも同じ理由によってAIには生み出したいのです。このように、AIは、人間との間に感覚の通有性を持ち得ないために、自ら主導して人間にとって価値のあるような発明・発見、芸術的創作を行うことができません。しかし、それは何も欠点というわけではないでしょう。私としては、機械が飛躍的な発想を行って人間の度肝を抜いたり、人間の魂の琴線を震わすような芸術作品を創作することを望んでおりません。それらは、人間の仕事として残しておいていただきたいのです。

(注) ○ ① ② ③ は段落符号である。

- インプット＝入力すること。
- ホーキング博士＝イギリスの理論物理学者。
- コーディング＝指導・助言すること。
- マシンスペック＝ここでは、コンピュータの性能のこと。
- 徒手空拳＝自分の力以外に頼るものがないこと。
- ほごにする＝なかつたことにする。

(一) ① AIにとってそれは困難です。とあるが、その理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア AIによる革新的な創作行為が難しいのは、AIは、あらかじめインプットされたメロディやリズムをそのままつなぎ合わせることでしか曲を作れないからである。
- イ AIによる革新的な創作行為が難しいのは、AIには、まだ知られていない新しいメロディやリズムのパターンを生み出して人間を驚かせたいという欲望が存在しないからである。
- ウ AIによる革新的な創作行為が難しいのは、人間と同じ脳を持たないAIには、人間がどのようなパターンのメロディやリズムに心地良さを感じるかが分からないからである。
- エ AIによる革新的な創作行為が難しいのは、現在の技術では歴史上に存在した全てのメロディやリズムをAIにインプットすることができず、データが不足するからである。

Iが発想するアイデアは、人間にとって意味のあるものにはならないと思います。⑤むしろ、そのようなAIの抱く欲望は、人間に害を及ぼす危険性があるので、欲望を自ら獲得する生命的なAIの開発については、制限するべきだと思います。⑥そして、価値ある発明・発見や芸術的創作は、人間の仕事として残しておいてほしいと思います。

(五) 次の文は、本文中のどの段落について述べたものか。段落符号で答えなさい。

AIを搭載したロボットが身体感覚に関わる内容を人間に教えるのは難しいということを、具体的な例を用いて説明している。

(六) 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを二つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

- ア 現在のAIは、聴衆が本物のバッハの曲と区別できないような曲を作ることができるようになっており、その能力は革新的な創作行為が可能な段階にまできている。
- イ 人間には多様な感性がある一方で感覚の通有性もあり、多くの人々が何に感動するかをアプリアリに知ることができるため、芸術的創作行為が成り立つ。
- ウ 現在のロボットにはバットの振り方を人間にきめ細かく指導することは難しいが、人間の身体感覚がインプットされたロボットの登場により、まもなくそれは可能となる。

(二) 筆者は第三段落で、「AI・ロボット」には獲得できない人間の身体知について述べている。それを要約して、七十字以上八十字以下で書きなさい。ただし、「身体感覚」、「総体」、「ひらめき」という三つのことばを全て使って、「人間の身体知は、……」という書き出しで書くこと。三つのことばはどのような順序で使ってもよい。

(注意) ・句読点も一字に数えて、一字分のマスを使うこと。
・文は、一文でも、二文以上でもよい。
・次のページの枠を、下書きに使ってもよい。

(三) ②、③にあてはまる最も適当なことばを、次のアからエまでのの中からそれぞれ選んで、そのかな符号を書きなさい。
ア しかし イ ただし ウ それとも エ したがって
オ しかも カ なぜなら

(四) 次の文章は、第五段落以降に述べられている発想力の問題について、ある生徒が書いたものである。①から⑥までの文の中から、本文に書かれていない考えを含むものを一つ選んで、その番号を書きなさい。

① 私は、この文章を読んで、現在の将棋AIが膨大な棋譜を学習して新手を発想するようになっていくと知り、プロ棋士が将棋AIの足元にも及ばなくなる時代が本当に来るのだという実感をもちました。②しかし、現在の将棋AIは人間がプログラミングしたものであり、負けそうになったときに将棋盤をひっくり返すような、プログラムの枠組みをはみ出す発想はしません。③そうした発想を生み出す欲望自体をもっていないからです。④もし、様々な欲望を自ら獲得するAIが開発されたとしても、人間と同じ身体をもたないA

エ 将棋AIが人間を打ち負かしても、将棋を指すプログラムをコンピュータ自身が開発したわけではないため、いまだAIは人間の力が及ぶ範囲内にある。
オ AIが飛躍的な発想をして人間を感動させたり驚かせたりすることを望む声もあるが、AIがコンピュータのプログラムである限り、それは実現不可能である。

※ 左の枠は、(二)の下書きに使ってもよい。ただし、解答は必ず解答用紙に書くこと。

人	間	の	身	体	知	は	

80 70

四 次の漢文（書き下し文）を読んで、あとの(一)から(四)までの問いに答えなさい。（本文の……の左側は現代語訳です。）

鄭人、郷校に遊び、以て執政を論ず。然明、子産に謂ひて曰はく、郷の国の人々が、村里 子産の政治を批評したの学校に集まつて

「郷校を毀たば如何。」と。子産曰はく、「何ぞ為さん。夫人朝夕して朝と夕に出仕して

退きて遊び、以て執政の善否を議す。其の善しとする所の者は、吾則ち之を行ひ、其の惡しとする所の者は、吾則ち之を改めん。是れ吾が師なり。之を若何ぞ之を毀たん。我、忠善を以て怨みを損するを聞く。威を

作して以て怨みを防ぐを聞かず。豈に遽かに止めしめざらんや。然れどはできないことではない

も猶ほ川を防ぐがごとし。大決の犯す所は、人を傷つくること必ず多し。堤防が大きき切れると

吾救ふこと克はざるなり。小決して道かしむるに如かず。吾聞きて之を棄とするに如かざるなり。」と。

（『春秋左氏伝』による）

（注）○然明は春秋時代の鄭の官人。

○子産は春秋時代の鄭の宰相。

(一) ① 何ぞ為さん の現代語訳として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 政治を批評することにどのような意味があるのか
イ どうして政治を批評した人々を罰しないのか
ウ どうして学校を廃止したりしようか

エ 学校を廃止するのはどのような理由からか

(二) ② 威を作して とあるが、これはどのような行動を表しているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 敬意を抱くこと

イ 権勢を振るうこと

ウ 實力者を頼ること

エ 意地を張ること

(三) ③ 大決の犯す所は、人を傷つくること必ず多し とは、どのようなことをたとえているか。その説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 政治への不満が爆発して世の中が乱れ、人々を苦しめること

イ 政治的な不正がはびこり、善良な人々に損害を与えること

ウ 人々の対立を助長して疑心暗鬼にさせ、信頼関係を損なうこと

エ 大きな災害が起こり、多くの人々が悲しみに暮れること

(四) 次のアからエまでのの中から、その内容がこの文章に書かれていることと一致するものを一つ選んで、そのかな符号を書きなさい。

ア 子産は、人の恨みは川の水と同様に途絶えることがないと言った。

イ 子産は、政治に対する批判は自分の師というべきものと考えていた。

ウ 然明は、学校を廃止するという決定を子産が下したことに安心した。

エ 然明は、進言を棄として政治を改めようとしないうちに子産に失望した。

（問題はこれで終わりです。）